

指示があるまで、このページをよく読んで待ちなさい。指示があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。

I 受験に際しての注意

- 1 問題用紙は1ページ（表紙を除く）から十七ページまでである。
- 2 問題の内容についての質問には、いつさい応じない。それ以外のことがらについて尋ねたことがあれば、手をあげて監督者に聞くこと。
- 3 監督者の「はじめ」の合図で始め、「やめ」の合図ですぐやめること。
- 4 解答用紙が折れ曲がったり、破れたり、汚れたりした場合には、手をあげて監督者に申し出ること。

II 解答記入上の注意

- 1 すべてマーク方式で解答を記入すること。
- 2 マークは必ずHBの黒鉛筆を使用して記入すること。ボールペン、万年筆、サインペン等を用いてはいけない。
- 3 答えは、すべて各問題の指示にしたがって解答欄にマークすること。
- 4 一度マークしたものを訂正するときは、プラスチック消しゴムで完全に消してからマークしなおすこと。消して出たカスはきれいに払っておくこと。
- 5 次の場合は、いずれも誤答となるから特に注意すること。
 - (1) マークの仕方が悪かった場合。（特にマーク欄が塗りつぶされていなかったり、外側に少しでもはみ出した場合）
 - (2) 問題が要求している以上に余分な答えをマークした場合。
 - (3) マークすべきところ以外に印をつけたり、汚したりした場合。特に枠内は絶対に汚さないこと。
 - (4) 訂正の場合の消し方が不十分な場合。

III 氏名等の記入上の注意

- 1 問題用紙と解答用紙の両方の所定欄に、漢字で氏名を、算用数字で受験番号をそれぞれ記入すること。
- 2 解答用紙の左側にある受験番号をマークすること。

氏 名	
-----	--

受験番号					
------	--	--	--	--	--

一 次の各問いに答えなさい。

問一 漢字の読みが間違っているものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 代替 (だいたい) ② 相殺 (そうさつ)
③ 養蚕 (ようさん) ④ 幾重 (いくえ)

問二 送り仮名の間違っているものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 乏しい ② 忙しい ③ 明かるい ④ 彩る

問三 「彼の行動にはカンシンさせられる」の傍線部の漢字として正しいものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 寒心 ② 関心 ③ 歛心 ④ 感心

問四 「意見、忠告を聞き流すこと」の意味となる四字熟語を選び、番号をマークしなさい。

- ① 馬耳東風 ② 本末転倒
③ 傍目八目 ④ 疑心暗鬼

問五 ☐ に同じ漢字が入るものを選び、番号をマークしなさい。

- ① ☐ 喜 ② ☐ 朝
③ ☐ 紫 ④ ☐ 勸
 ☐ 憂 ☐ 暮
 ☐ 明 ☐ 懲

問六 太宰治の作品として適切でないものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 「富嶽百景」 ② 「人間失格」
③ 「トロツコ」 ④ 「斜陽」

問七 「() に火を灯す」の () に入る言葉を選び、番号をマークしなさい。

- ① 鼻 ② へそ ③ つめ ④ 髪

問八 副詞の呼応が正しく用いられているものを選び、番号をマークしなさい。

- ① とうてい信じてもらえらるだろう。
② 少しも食べることができない。
③ お金を持っていれば必ずしも幸福だ。
④ まさか秘密を知っているだろう。

問九 漢字と部首の組み合わせとして正しいものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 畑—火 ② 相—目
③ 敗—貝 ④ 現—見

問十 「古い習慣にとらわれて進歩のないこと」を意味する故事成語を選び、番号をマークしなさい。

- ① 守株 ② 杜撰
③ 塞翁が馬 ④ 他山の石

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昨今、「正しさは人それぞれ」とか「みんなちがってみんないい」といった言葉や、「現代社会では価値観が多様化している」「価値観が違う人とは結局のところわかりあえない」といった言葉が流布しています。このような、「人や文化によって価値観が異なり、それぞれの価値観には優劣がつけられない」という考え方を相対主義^①といいます。「正しさは人それぞれ」ならまだしも、「絶対正しいことなんてない」とか、「何が正しいかなんて誰にも決められない」といったことさえ主張する人もけっこういます。

こうしたことを主張する人たちは、おそらく多様な他者や他文化を尊重しようと思っているのでしょう。そういう善意はよいものではありますが、はたして「正しさは人それぞれ」や「みんなちがってみんないい」という主張は、本当に多様な他者を尊重することにつながるのでしょうか。そもそも、「正しさ」を各人が勝手に決めてよいものなのか。それに、人間は本当にそれほど違っているのかも疑問です。

たしかに、価値観の異なる人と接触することがなかったり、異なっていることも両立できるような価値観の場合には、「正しさは人それぞれ」と言っているても大きな問題は生じません。たとえば、訪ねることも難しい国の人たちがどのような価値観によって生活していても、自分には関係がありません。またたとえば、野球が好きな人とサッカーが好きな人は、スポーツのネタでは話が合わないかもしれませんが、好きなスポーツの話さえしなければ仲良くできるでしょう。サッカー好きなのは間違っていて、すべての人は野球が好きでなければならぬ、なんていうことはありません。

こうした場面では、「人それぞれ」「みんなちがってみんないい」でよいでしょう。**A**、世の中には、両立しない意見の中から、どうにかして一つに決めなければならない場合があります。

B、「日本の経済発展のためには原子力発電所が必要だ」という意見と、「事故が起こった場合の被害が大きすぎるので、原子力発電所は廃止すべきだ」という意見とは、両立しません。どちらの意見にもっともな点があるかもしれませんが、日本全体の方針を決めるときには、どちらか一つを選ばなければなりません。原子力発電所を維持するのであれば、廃止した場合のメリットは捨てなければなりません。逆もまたしかり。「みんなちがってみんないい」というわけにはいかないのです。

そんなときには、どうすればよいのでしょうか。「価値観が違う人とはわかりあえない」のであれば、どうすればよいのでしょうか。

そうした場合、現実の世界では権力を持つ人の考えが通ってしまいます。本来、政治とは、意見や利害が対立したときに妥協点や合意点を見つけたためのはたらきなのですが、最近では、日本でもアメリカでもその他の国々でも、権力者が力任せに自分の考えを実行に移すことが増えています。批判に対してきちんと正面から答えず、単に自分の考えを何度も繰り返したり、論点をずらしてはぐらかしたり、権力を振りかざして脅したりします。

② そうした態度を批判するつもりで「正しさは人それぞれだ」とか「みんなちがってみんないい」などと主張したら、権力者は大喜びでしょう。なぜなら、もしもさまざまな意見が「みんなちがってみんないい」のであれば、つまりさまざまな意見の正しさに差がないとするなら、選択は力任せに行うしかないからです。「絶対正しいことなんてない」とか「何が正しいかなんて誰にも決められない」というのであればなおさらです。決定は正しさにもとづいてではなく、人それぞれの **X** ③ な信念にもとづいて行うしかない。それに納得できない人とは話し合っても無駄だから権力で強制するしかない。こういうことになってしまいます。

C、「正しさは人それぞれ」や「みんなちがってみんないい」といった主張は、④ 多様性を尊重するどころか、異なる見解を、権力者の主観によって力任せに切り捨てることを正当化することにつながってしまうのです。これでは結局、「力こそが正義」という、困った世の中になってしまいます。それは、権力など持たない大多数の人々（おそらく、この本を読んでくれているみなさんの大部分）の意見が無視される社会です。

では、どうしたらよいのでしょうか。

よくある答えは、「科学的に判断するべきだ」ということです。科学は、「客観的に正しい答え」を教えてくれると多くの人は考えています。このように、さまざまな問題について「客観的で正しい答えがある」という考え方を、⑤ 普遍主義といいます。探偵マンガの主人公風に言えば、「真実は一つ」という考え方だといってもよいかもしれません。先ほどの相対主義と反対の意味の言葉です。「価値観が多様化している」と主張する人たちでも、科学については普遍主義的な考えを持っている人が多いでしょう。「科学は人それぞれ」などという言葉はほとんど聞くことはありません。

そして実際、日本を含めてほとんどの国の政府は、政策を決めるにあたって科学者の意見を聞くための機関や制度を持っています。日本であれば、各省庁の審議会（専門家の委員会）や日本学術会議などです。「日本の経済発展のために原子力発電所は必要なのか」「どれ

ぐらいの確率で事故が起こるのか、事故が起こったらどれぐらいの被害が出るのか」といった問題について、科学者たちは「客観的で正しい答え」を教えてくださいませんか？」

ところが、実は科学は一枚岩ではないのです。科学者の中にも、さまざまな立場や説を取っている人がいます。そうした多数の科学者が論争する中で、「より正しいような答え」を決めていくのが科学なのです。それゆえ、「科学者であれば全員が賛成している答え」がでるには時間がかかります。みなさんが中学や高校で習うニュートン物理学は、いまから三〇〇年以上も昔の一七世紀末に提唱されたものです。アインシュタインの相対性理論や量子力学は「現代物理学」と言われますが、提唱されたのは一〇〇年前（二〇世紀初頭）です。現在の物理学では、相対性理論と量子力学を統一する理論が探究されていますが、それについては合意がなされていません。合意がなされていないからこそ、研究が進められているのです。

最先端の研究をしている科学者は、それぞれ自分が正しいと考える仮説を正当化するために、実験をしたり計算をしたりしています。つまり、科学者に「客観的で正しい答え」を聞いても、何十年も前に合意が形成されて研究が終了したことについては教えてくれますが、まさしく今現在問題になっていることについては、「自分が正しいと考える答え」しか教えてくれないのです。ある意味では、「科学は人それぞれ」なのです。

そこで、たくさんの科学者の中から、自分の意見と一致する立場をとっている科学者だけを集めることが可能になります。東日本大震災で福島第一原発が爆発事故を起こす前までは、日本政府は「原子力推進派」の学者の意見ばかりを聞いていました（最近また、そういう時代に逆戻りしつつあるような気がします）。アメリカでも、トランプ大統領（在任二〇一七―二〇二一）は地球温暖化に懐疑的な学者ばかりを集めて「地球温暖化はウソだ」と主張し、経済活動を優先するために二酸化炭素の排出の規制を緩和しました。

権力を持つ人たちは、もっと直接的に科学者をコントロールすることできます。現代社会において科学研究の主要な財源は国家予算です。そこで、政府の立場と一致する主張をしている科学者には研究予算を支給し、そうでない科学者には支給しないようにすれば、政府の立場を補強するような研究ばかりが行われることになりかねません。

このように考えてくると、科学者であっても、現時点で問題になっているような事柄について、「客観的で正しい答え」を教えてくださいませんか？ ではどうしたらよいのでしょうか。自分の頭で考える？ どうやって？

この本では、「正しさ」とは何か、それはどのようにして作られていくものなのかを考えます。そうした考察を踏まえて、多様な他者と理解し合うためにはどうすればよいのかについて考えます。ここであらかじめ結論だけ述べておけば、私は、「正しさは人それぞれ」でも「真実は一つ」でもなく、人間の生物学的特性を前提としながら、人間と世界の関係や人間同士の関係の中で、いわば共同作業によって「正しさ」というものが作られていくのだと考えています。それゆえ、多様な他者と理解し合うということは、かれらとともに「正しさ」を作っていくということです。

これは、「正しさは人それぞれ」とか「みんなちがってみんないい」といったお決まりの簡便な一言を吐けば済んでしまうような安易な道ではありません。これらの言葉は、言ってみれば相手と関わらないで済ますための最後通牒つうわうです。みなさんが意見を異にする人と話し合った結果、「結局、わかりあえないな」と思ったときに、このように言うでしょう。「まあ、人それぞれだからね」。対話はここで終了です。

ともに「正しさ」を作っていくということは、そこで終了せずに踏みとどまり、とことん相手と付き合うという面倒な作業です。相手の言い分を受け入れて自分の考えを変えなければならぬこともあるでしょう。それでプライドが傷つくかもしれません。しかし、傷つくことを嫌がっているのは、新たな「正しさ」を知って成長していくことはできません。

最近、「正しさは人それぞれ」と並んで、「どんなことでも感じ方しだい」とか「心を傷つけてはいけない」といった感情尊重の風潮も広まっています。しかし、学び成長するとは、今の自分を否定して、今の自分でないものになるということです。これはたいへんに苦しい、ときに心の傷つく作業です。あえていえば、成長するためには傷ついてナンボです。若いみなさんには、傷つくことを恐れずに成長の道を進んでほしいと思います（などと言うのは説教くさくて気が引けますが）。

（山口裕之『みんな違ってみんないい』のか？―相対主義と普遍主義の問題―）

問一 ① 相対主義の考え方として適切でないものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① みんな違ってみんないいという考え方
- ② 価値観に優劣はないという考え方
- ③ 力こそが正義という考え方
- ④ 絶対正しいことなんてないという考え方

問二 ② A C に当てはまる語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① もし
- ② たしかに
- ③ たとえば
- ④ しかし
- ⑤ つまり
- ⑥ あるいは

問三 ② そうした態度の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 権力者が問題を途中で投げ出してしまうような態度
- ② 権力者が様々な意見の妥協点を見出そうとする態度
- ③ 権力者が強引に自分の考えを通そうとする態度
- ④ 権力者が多様な意見を尊重しようとする態度

問四 ③ 権力者は大喜びの理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 一人一人の意見の正しさに差がないなら、決定は権力により強制するしかないから。
- ② それぞれの考えが認められることで、個人が尊重される社会を作ることができるから。
- ③ さまざまな人の利害を対立させることなく、良いところを集めて政治を行うことができるから。
- ④ 異なる見解がたくさんある方が、最終的に妥協点を見出すときに役に立つと考えられるから。

問五 ④ 多様性と同じ意味を表す語句として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① エコノミー
- ② ジェンダー
- ③ コンセンサス
- ④ ダイバーシティ

問六 ① X に当てはまる語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 客観的
- ② 主観的
- ③ 相対的
- ④ 全体的

問七 ^⑤ 普遍主義の意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① それぞれの価値観によって多様な正解があるという考え方
- ② 誰が見ても正しいと納得できる答えがあるという考え方
- ③ 時代によって唯一の正しさは変化していくという考え方
- ④ 対話によらずとも科学的に唯一の正解は決まっているという考え方

問八 ^⑥ 科学は一枚岩ではないの説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 科学が唯一の答えを導き出せるのは、現代最先端の分野に限られているということ。
- ② 科学は誰が見ても正しい唯一の答えを教えてくれるということ。
- ③ 科学によって導き出した正しい答えも政府の政策によって歪められることがあるということ。
- ④ 科学は多数の科学者が議論しながら比較的正しい答えを決めていくものであるということ。

問九 ^⑦ コントロールの意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 制御
- ② 召集
- ③ 服従
- ④ 理解

問十 ^⑧ 安易な道ではありませんの理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 「正しさ」を作ることとは、最先端の科学的知見に基づいて誰も反論できない真実を見つけ出す困難な作業だから。
- ② 「正しさ」を作ることとは、意見の異なる人と対話しても最終的には分かり合えない可能性があることが前提になっているから。
- ③ 「正しさ」を作ることとは、ときに相手を受け入れ、自分の考えを変えることで傷つく可能性がある面倒な作業だから。
- ④ 「正しさ」を作ることは、生物学的な人間の限界を理解し、対話の相手を傷つけないようにする努力が必要だから。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今年は桜の開花が早かった。校庭には風に吹かれて、だれかに踏まれてしまった花びらがそこかしこに落ちている。春の淡い空気がほくを取り巻いて、ぼくは少し息苦しくなる。

ざわざわとする校庭で、大きく貼り出されたクラス名簿にやっと自分の名前を見つけた。五年二組。クラスメイトの名前よりも先に、担任の先生の名前を探す。椎野清子先生。四年生のときと同じ椎野先生だ。その名前を見て、ぼくは半分くらいほっとして、同じくらい①気も引けた。

だって椎野先生は、なんていうのか、ぼくをすごく気にかけてくれるから。なにかにつけて声をかけてくれる。授業中、ぼくが手をあげていなかったって、関係なく指して、ぼくになにかをしゃべらせようとする。まるでぼくの中から新しいぼくを見つけて、外に出そうとしているみたいに思えるのだ。でも実際のぼくは、このまんまが百パーセントのぼくだから、先生に申し訳なく思ってしまう。

だから、椎野先生のクラスっていうのはうれしんだけど、それはちよつと離れたところから見ているぶんには安心できるっていうことで、実際に面と向かって話しかけられたりするのは苦手だということ。

でも、やっぱり椎野先生でよかったと思った。生徒に人気のある、若くて血気盛んな先生がぼくは苦手だった。「がんばれ」「やればできる」「元氣出せ」と背中を叩かれると、とたんに氣力が萎えてしまうのだった。

I と教室に入り、出席番号順になっている席に座った。ぼくには、仲のいい友達もいなかったから、だれかと一緒になってうれしいとか、だれかと離れて残念だとかいう気持ちはまったくなかった。

ぼくはいつだって、まぬけなクラスの一員でしかなかった。クラスメイトには、ぼくは、なんの取り得もなく目立つことのないさえない男子という認識しかなかったと思う。ぼくは勉強もできなかったし、運動もからきしだった②。

新学期の教室内は熱気にあふれていた。新しい学年、新しいクラス、新しい友達。ぼくだけがしずかすぎて浮いていただろう、一人、だれも気に留めないところで。

ガラッと教室の戸が開いて、椎野先生が入ってきた。教室がにわかにしんとなった。椎野先生は「えがお顔」だ。いつだって、やさしい笑みを顔に浮かべている。

「五年二組の担任の椎野清子です。これから一年間、よろしくお願いしますね」

うしろのほうから、だれかのちえつという音が聞こえて、ぼくは、その舌打ちが椎野先生に聞こえなければいいと思った。椎野先生はぼくの母さんよりもっと年上で、おばあさんに近いような年齢だったと思う。

「では、まずみなさんの自己紹介からはじめましょうか」

先生が言って、クラスが少しざわめいた。ぼくも緊張した。人前でなにかをしゃべるといのは、ぼくがもともと苦手なことのひとつだった。A、出席番号が早いぼくは、席順からいくと二番目だった。いつものことながら、A^③ぼくは自分の苗字をうらんだ。最初のほうだと、まだみんなが集中していて、ものすごく注目されてしまうのだ。

一番目の男子が、みんなの注目を浴びながら自己紹介をした。

「はい、次の人」

そう言って、先生はぼくの顔を見た。なにかを期待しているような目だ。ぼくは反射的に目をそらして、名前だけを言った。

椎野先生が「それだけ?」と聞くので、「よろしくお願いします」とだけ付け足したら、うしろの席のやつが、もっとなんか言えよ、とぼくの背中をつついてきた。ぼくは少し考えたけど、特に言うようなことは見つけられなかったから、そのまま座った。ぼくをつついてきたうしろのやつは、自分の名前を言ったあとに、

「好きなことは野球。好きな食べ物は焼き肉。好きな科目は体育。好きな女の子は秘密です」

と言って、クラスメイトの何人かが笑った。

四階の窓からは、ぼやけた水色の空と、そのぼやけた空に溶けこんでしまいそうな薄い雲がところどころに広がっていた。昨日は冬の寒さで、朝からストーブをつけっぱなしだったけど、今日はまた春の陽気に戻ったみたいになど思った。模型みたいに見える道や家や空き地

近くを流れる川がよく見える。この高さから町を眺めれば、上手に地図が描けそうだなと思った。模型みたいに見える道や家や空き地や公園、まっすぐに見えるように曲がりくねっている川。少し開いている窓から、新しい季節の風が入ってきて、ぼくのおでこをなでていった。

その頃、母さんはまだ勤めていて、帰りはたいてい六時を過ぎていた。五年生のぼくは、簡単な家事ならひと通りできるくらいにはなっていた。お米をといで炊飯スイッチを押す。豆腐をさいの目に切ってだしの素もとを入れ、味噌汁を作る。洗濯物を取りこんでたたみ、たすにしまう。掃除機をかける。魚を焼く。肉を焼く。野菜をゆでて盛りつける。社会人の男の一人暮らし程度のことは充分にできていたと思う。

母さんとの二人暮らしというのは、きつと、そうではない人たちの想像どおりのもので、そのイメージは、ぼくにいろんなことを教えてくれた。良いことも悪いことも含めてだ。

B、押野おしのという、うしろの席の（自己紹介のときにぼくの背中をつついていたやつだ）同級生が帰り際、ぼくを野球に誘ってくれたことは驚きだった。クラスメイトからそういう誘いを受けたことなんて、それまで一度もなかったのだから。

ぼくには、いつでももの悲しいようなイメージがつきまっていたと思うし、実際ぼくはそのとおりなんだし、また、そうしなければいけないんだ、と子どもながらに感じていた。^④自分が発している雰囲気、クラスメイトは敏感に感じ取って、ぼくに遠慮していたのかもしれない。

「枝田えだだったよな。俺、押野。昼飯食ったら、三丁目の空き地に来いよ。野球しようぜ」
肩を大きくはたかれそう言われ、ぼくは反射的にぎくしゃくとうなずいた。自己紹介があつた、五年生になりたての始業式の日のことだ。

なんで押野が突然ぼくに声をかけてくれたのか、ぼくにはさっぱりわからなかった。五年生のクラス替えではじめて一緒になったばかりだったし、自己紹介からして、^⑤ぼくとはまったく正反対のタイプのようない気がしていた。

ぼくの頭の中は、驚きと疑問でこんがらがっていたけど、なによりもただ単純にうれしかった。夢じゃないか、と思ったくらいに。

もしかして悪質ないじめかもしれない、という考えも少しだけ **Ⅱ** をかすめたけど、^⑥もしそうだったとしても、それでもよかった。

だつてぼくは、だれかにいじめられることすら、これまでなかったんだから。ぼくはだれの目にも留まらない幽霊のような子どもだった。いじめられるほどの価値もなかったし、どういう状況においても、だれかにちよっかいを出されることすらないような影の薄い子どもだ。

った。

その日、ぼくは足早にうちに帰って、押し入れからいそいでグローブを探し出した。ずっと前に近所の人からもらったものだ。革が硬くなっていたけど、サイズはいつのまにかちょうどよくなっていた。はじめてと言つていくら久しぶりの感触だった。

ぼくは少しでもなじむように、グローブをつけたまま、炊飯器からご飯をよそい、味噌汁を温め、昼食をとった。さつきのクラスメイトからの言葉を思い出して、尻がむずむずした。

時間を約束していたわけじゃないけど、ぼくは一刻も早く空き地に行かなければならない気がした。場所は知っていた。母さんの勤めている会社に行くときに何度も通っていたから。支度がすむと全速力で走って三丁目の空き地に向かった。

広場にはすでに数人が集まっていた、その中にはぼくを誘ってくれた押野もいた。押野は土管の上に座って、菓子パンを食べていた。ぼくに気が付いて、ひょいと手をあげた。

「枝田！ こっちだぜ」

びっくりした。自分の苗字をクラスメイトが大きな声で呼んでくれるなんて。今日はじめて会ったばかりのぼくに、まるで

Ⅲ
み

たいに声をかけてくれた友人を、ぼくは考える間もなく好きになっていた。それからぼくたちは、野球らしきことをした。四人ずつくらいに分かれて適当に打ったり、投げたりをくりかえした。ちょっとだけ心配していた、いじめなんてことはまるでなかった。

はじめて参加したぼくを、そこにいたみんなは何事もなかったように受け入れた。それは、幽霊みたいに存在感のないぼくが眼中になかったという意味ではなくて、昔からの顔なじみのようにあつさりと自然に受け入れてくれたのだった。極度の人見知りをするぼくも、なぜかあまり緊張せずにふわふわとはじめた。

実を言うと、ぼくが野球をしたのはこのときが生まれてはじめてだった。ボールはバットをかすめもしなかったし、グローブに触れることもなかった。ぼくが投げるボールは、だれのところにも届かなかった。

五年生男子といったら、たいていはソフトボールや野球に関わっていると思うけど、ぼくには今までそんな機会がなかった。もちろん

⑨

ルールは知っていたし、たまにテレビでプロ野球を観たりすることもあったから、興味がないわけではなかったのだけど、ただ本当にそ

ういう機会にめぐまれなかったのだ。学校の授業でやるのは、せいぜいドッジボールぐらいなものだ。

「得意じゃないみたいだな」

と押野に言われ、いくらなんでもはじめてだとは言えず、うん、と答えるのがやっとだった。ぼくにはもともと、運動神経という、男の子にとっては重要な意味を持つ神経がほとんどなかったから、もっと前に慣れ親しんでいたとしても、きっと今とほとんど変わらない程度だったと思う。

「めっちゃくちゃ下手だなあ」

ほかのだれかがそんなことを言った。「すげーへっぴり」とか「センスなし」とか。だけど、ぼくはなにを言われたって、ぜんぜんかまわなかった。

だって、すごく、ものすごく、たのしかった。汗をかいて、服を汚すなんてことは、ぼくにとって、はじめての経験だったのだから。それが、五年生になったばかりの日の出来事だ。その日のことはよく覚えている。

「あなたの人生のターニングポイント^⑩はいつですか」と聞かれたら、ぼくはまずその日のことを答えるだろう。はじめての経験。まさに、^⑪社会へと小さな一步を踏み出した記念すべき日だ。

その年はいろいろなことがあった。あわただしくて、濃密で、そして、ぼくはちっけな五年生の子どもだった。

（椰月美智子『しずかな日々』）

問一

① 同じくらい気も引けたとあるが、その理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 椎野先生は他の生徒には人気があるが、ぼくは若くて血気盛んなところに苦手意識があるから。
- ② 椎野先生はぼくのことを気にかけてくれているが、その期待に応えられずに申し訳ないと思っているから。
- ③ 椎名先生は四年生の時も担任だったので、せっかくの新学期の新鮮さにかけてしまうと思ったから。
- ④ 椎名先生は「がんばれ」「やればできる」「元気出せ」と背中を叩くので、かえってやる気が萎えてしまうから。

問二

I に入る語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① ずかずか
- ② おずおず
- ③ バタバタ
- ④ ぶらぶら

問三

② からきしの意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 全くできない
- ② ほとんどしない
- ③ もともと嫌い
- ④ 少しは興味がある

問四

A、B に当てはまる語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① つまり
- ② また
- ③ もしも
- ④ しかも
- ⑤ だから

問五

③ ぼくは自分の苗字をうらんだとあるがその説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 最初の方で自己紹介をすると、まだクラスメイトも緊張しており、きちんと自分の話を聞いてくれないことを残念だと思っている。
- ② 枝田という苗字は比較的珍しいので、新学期に自己紹介をするとからかわれることがあり、内気なぼくはそれを心配している。
- ③ 苗字が名前順だと早い方なので、苦手な自己紹介をまだみんなが注目している早い段階でしなければならいことを嫌だと感じている。
- ④ 自己紹介の時は先生が期待を込めた目で沢山話すよう促してくるが、ぼくは人前で話すことが苦手なので、やめてほしいと苛立っている。

問六 自分が発している雰囲気の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 母さんとの二人暮らしで苦勞しており、気軽に遊びに誘えない雰囲気
- ② 社会人の男の一人暮らし程度のことはできるといふ大人びた雰囲気
- ③ 仕事で母さんの帰りがいつも遅いことを悲しんでいる雰囲気
- ④ おとなしい性格なので、クラスの輪に入ることを遠慮している雰囲気

問七 ぼくとはまったく正反對のタイプの説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 初対面の人間の背中を後ろからつついてくるような、攻撃的で遠慮のないタイプ。
- ② 担任の先生の自己紹介に舌打ちするなど、自分の感情を素直に表す性格タイプ。
- ③ 自己紹介では緊張せずに話ができ、クラスメイトを笑わせるユーモアもあるタイプ。
- ④ 自己紹介で好きな女の子の話をする、小学五年生にしては大人ぶるタイプ。

問八 Ⅱ に入る語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 頬
- ② 頭
- ③ 肩
- ④ 耳

問九 ⑥ それでもよかったとあるがその理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① もしいじめだったとしても自分は目立たない価値のない人間だから我慢するしかないとききらめていたから。
- ② たとえいいじめだったとしても、新しいクラスで新しい友達を作るためには仕方がないことだと覚悟を決めていたから。
- ③ もしいじめだったら最終的には担任の椎野先生に助けを求めればよいと考えて安心していたから。
- ④ たとえいいじめだったとしても、なんの取り得もなく目立たないぼくにとって、クラスメイトに声をかけられることは嬉しいことだったから。

問十 ⑦ 尻がむずむずしたに表れているぼくの感情として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 諦め
- ② 焦り
- ③ 恐怖
- ④ 期待

問十一 Ⅲ に当てはまる語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 母親
- ② 親友
- ③ 王様
- ④ 家来

問十二 何事もなかったように受け入れたから読み取れる内容として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。^⑧

① 押野やほかのクラスメイトはよくと一緒に野球をするこ

とを大げさには考えておらず当たり前のことだと考えている。

② ぼくの存在感が薄いので、クラスメイトたちもぼくのことを時に気にせず野球に集中できている。

③ ぼくは野球が下手なので、あまり注目するとぼくに恥をかかせると考え、目立たないようにそつとしておいている。

④ 母さんと二人暮らしのぼくに気を使って声をかけたのだと気づかれないように押野とクラスメイトは話し合っている。

問十三 そんな機会の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。^⑨

① ソフトボールや野球をする機会

② 放課後に友達と遊ぶ機会

③ 運動神経を磨く機会

④ 野球に興味を持つ機会

問十四 ターニングポイントの意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。^⑩

① 運命を感じた時

② 楽しかった時

③ 変わり目となった時

④ 思い出に残った時

問十五 社会へと小さな一步を踏み出した記念すべき日の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。^⑪

① 周りの目が気になって仕方がない性格だった僕が、新しいクラスで様々な経験を積むことによって、何を言われても気にしない強い気持ちを手に入れることになった重要な日。

② 五年生に進級し、担任の先生やクラスの友人と共に過ごした学校生活時代特有の慌ただしくて濃密な大切な思い出となっている日。

③ 運動神経の良くない僕が新学期になって友達を作り、放課後野球をするものの、上手にできなかったことで世の中の厳しさを知るきっかけとなった日。

④ 内気で影の薄い僕が、放課後クラスメイトに誘われて一緒に野球をしたことで、他者との関わりを持つきっかけを得ることができるようになった日。

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、高忠といひける越前守の時に、いみじく不幸なりける侍の、夜昼まめなるが、冬なれど、帷※をなむ着たり。雪のいみじくふる日、この侍、清めすとして、物の憑きたるやうに震ふを見て、守、「歌よめ、をかしうふる雪かな」と言へば、この侍、「何を題にて仕るべき」と申せば、^②「裸なる由を詠め」と言ふに、程もなく震ふ声をささげて詠みあぐ。^③

はだかなる我が身にかかる白雪はうちふるへども消えせざりけり

と詠みければ、守いみじくほめて、着たりける衣をぬぎてとらす。^④北の方もあはれがりて、薄色の衣のいみじう香ばしきをとらせたりければ、二ながらとりて、かいわぐみて、脇にはさみて立ちさりぬ。侍に行きたれば、居並みたる侍共みて、驚きあやしがりて問けるに、かくと聞きてあさましがりけり。^B

〔宇治拾遺物語〕

※帷……裏地のない着物、かたびら

※北の方……貴人の妻のこと

問一 まめなる、あさましがりけりの現代語訳として最も適切なものをそれぞれ次より選び、番号をマークしなさい。

A
まめなる

- ① まじめに働いている
- ② 細かい仕事をしている
- ③ 少しだけ仕事をしている
- ④ 休みながら働いている

B
あさましがりけり

- ① 批判をした
- ② うらやましがった
- ③ 驚きあきれた
- ④ 悲しみ嘆いた

問二 越前に該当する現在の都道府県として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 長野県
- ② 秋田県
- ③ 和歌山県
- ④ 福井県

問三 X に当てはまる語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① けら
- ② けり
- ③ ける
- ④ けれ

問四 仕るの本文における意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 問題にお答え申し上げる
- ② 歌をお詠み申し上げる
- ③ 清掃をし申し上げる
- ④ 外にお供をし申し上げる

問五 「裸なる由を詠め」と言ふの主語に該当する人物として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 高忠
- ② 侍
- ③ 居なみたる侍共
- ④ 北の方

問六 北の方もあはれがりてとあるがその理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 和歌がとても素晴らしく心を動かされるものだったから。
- ② 外の雪景色が想像以上に美しいものであったから。
- ③ 部下の和歌をほめて着物を渡した夫に感動したから。
- ④ ずうずうしくも着物をもらった侍を悲しく思ったから。

問七 本文の内容に合致するものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 侍は同僚に対して自慢げに自分の行いを話した。
- ② 侍は雪の降る中であっても薄着で清掃をしていた。
- ③ 高忠と北の方は二人で一枚の着物を侍に与えた。
- ④ 高忠は部下の不幸な侍に多くの仕事を命じた。